

## 数字では表せない 100 年間

(原文)

タニシカ ムルティ (17 歳)

インド<大阪府在住>

「いのちって何？」という文章を読んだ私には一つだけ疑問が湧きました。なんで漢字で「命」と書かなかったのだろう。私にとって「命」は生物学的な用語です。私にとって「いのち」は一体何なのだろうか。

私たちは一生の間で様々なことを経験します。喜び、怒り、哀しみ、楽しさ、全て経験して初めて充実した人生といえるのかもしれませんが。しかし、私たちの一生は数字で表されます。何年に生まれ何年に亡くなった。何時に生まれ何時に亡くなった。感情のかけらもない「数字」で始まり、感情のかけらもない「数字」で終わります。間のものはどこへ行ったのか。間の喜怒哀楽はどこへ消えてしまったのか。その人が生きていた 100 年は二つの数字でまとめて良いのか。

これが「命」です。生物学的な用語でしかない「命です」。二つの数字、始まりと終わりさえあれば必要な情報が全て得られるのが「命です」。しかしこれは、決して「いのち」ではありません。喜怒哀楽、喜び、怒り、哀しみ、楽しさ、全てを経験して初めて充実するのが人生。全てを経験して初めて重要さを知れるのが「いのち」。

「命」は一つしか与えられません。でも「いのち」はたくさんあります。私はそう信じています。なぜなら「いのち」こそが人生を充実したものにしてくれるからです。人生は好きな時にリセットできます。今いる環境が嫌なら移動します。新しいことを学びたいなら新しいことを学びます。したいことはいつでも挑戦できます。選択肢にあふれた私たちの人生は「いのち」があるおかげで続いています。

「命」があるおかげで生きています。でも「いのち」があるおかげで充実しています。「いのち」があるおかげで私たちは感情と戦い、欲を満たし、複雑な思いをし、やがて幸せを手に入れます。

さて、「いのち」は数字で表せるのでしょうか。いつ初めて喜びを覚えたかあなたは思い出せますか？いつ初めて怒りを覚えたかあなたは思い出せますか？私は何も思い出せません。気づいた頃にはこの全ての感情とそれと繋がっている思い出、人、経験は私の一部になっていました。数字では表せないくらい偉大なもの。数字では表せない複雑なこと。数字では表せない、充実した人生を与えてくれるもの。それが「いのち」なのではないでしょうか。

疑問に対する答え、見つかりました。「いのち」というのは生物学的な用語ではありません。いのちという言葉の中にはただ一人の人生が描かれているだけではありません。ただ一人の生まれた瞬間、死んだ瞬間、生きていた間の 100 年だけの「数字」の集まりではありません。いのちにはその人が見

たもの、経験したこと、学んだこと、気づいたこと、出会った人、感じたこと、残した思い、全て含まれています。その人自身を作り上げる要素全て、「いのち」と言う一言で表せるのです。